



市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



参議院議員
たけだ良介

前衆議院議員
藤野保史

参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

県下初

高齢・難聴者に補聴器助成

2022年度小矢部市予算案

2022年度小矢部市予算(案)の概要が2月17日に発表されました。市民の声が政治を動かしました。要望を寄せていた市民の皆さんのコメントと合わせて紹介します。

★高齢者補聴器購入費助成金

【対象】住民税非課税 65歳以上。上限2万円、予算額20万円。県内初の取り組みです。

市民の声

この実現に向けて要望活動をしてきた全日本年金者組合小矢部支部長八尾三紀夫さんから次のコメントが寄せられました。

加齢とともに補聴器の必要性は誰にでも起こり得ます。年金者組合小矢部支部は、昨年12月市長への申し入れとして「加齢性難聴者の補聴器購入に市の助成」を要請しました。市長は「予算編成の中で、議論したい」と真摯に応じました。

また、12月議会での砂田市議の質問で、民生部長から「独自に、実施に向けて調査研究したい」との答弁を引きだし、大きく踏み出しました。

市民の直接請求と議会の連携で見事に実現できました。条件付きとはいえ、制度として創設した意義には大きいものがあります。



★国保税・未就学児の均等割を半額に

国民健康保険事業特別会計 29億5190万円
加入者数5514人、前年比148人減。

国は制度を見直し、未就学児の国保税均等割(2万9400円)を半額にします。日本共産党は子どもの均等割を廃止するよう求めています。国民健康保険以外の社会保険では扶養家族が増えても保険料が増えません。国保だけに特有の制度で、赤ちゃんが一人生まれるたびに約1・5万円、小学生になったら約3万円の国保税が増えます。市独自でも子どもの均等割免除に踏み出すべきです。

★消雪施設の井戸を掘り直す

吉和台町内 2300万円

市民の声

吉和台の一つの系統の消雪装置が故障して困っていたところで

す。積雪があったとき、機械除雪はされますが雪置き場の確保に苦労しているところです。予算化について、町内の消雪の世話をしている人も、関係住民一同「これでひとまず安心」だと思えます。この間、町内を車で訪れて雪に悩まされた人もおられました。降雪ごとに消雪装置の必要性を痛感しています。関係された皆さんありがとうございました。(Aさん)

★保育士などの処遇改善

放課後児童クラブ支援員 281万5千円
公立保育施設保育士等 1023万6千円
民間保育施設保育士等 1377万6千円

賃金を月額9千円引き上げます。これに社会保険料の事業主負担分も加算します。放課後児童クラブ支援員に関して1月19日に開かれた市議会全員協議会で砂田市議が改善を求めていました。22年2月、3月分については21年度補正予算で、22年度は新年度予算で対応します。22年9月分までは全額国が負担し、10月分からは国・県・市が3分の1ずつ負担します。

★子育て世帯へお米券配布

15歳以下のいる世帯に5千円。1800世帯。
予算額981万5千円

市民の声

米価下落対策、米の消費拡大などを要望していた農民運動富山県連合会小矢部班の荒木義昭さんや消費者のコメントです。

食糧支援はお米の消費拡大につながり、歓迎します。

小矢部市独自の施策だから、市内産米に限定してほしい。消費者が使いやすいように、少額券に(例えば、500円券)とすること、市内の小矢部産米販売所をお米券に紹介していただきたい。

子どもの対象年齢も18歳までとし、世帯単位ではなく、子ども一人に5千円券とすることをお願いしたい。

これを機会に、市報で「お米は小矢部産米を食べましょう」運動のキャンペーンをお願いします。(荒木義昭さん)

コロナ禍で、いままでは昼食を外食にしていたが、3度お米を自宅で食べるので、お米がすぐ無くなる。お米券は助かる。スーパーでは県産の米を買うようにしている。(Nさん)

お米券、いいね。私は農民連の米産直を利用しているので、県産の米だと思う。(Aさん)

★大谷小学校グラウンド改修工事

「排水が悪く、直線で100メートルコースを取れない」。この声を聞いて大谷校下4自治振興会が市にグラウンドの改善を要請。砂田市議も学校から実情を聞き、6月議会で取り上げました。

★新築住宅建築・取得者への助成金

予算額2179万円

転入者へ50万円(これまで100万円)、中学生以下の子ども一人につき10万円加算します。

婚姻3年以内の住宅取得者に50万円、婚姻の日以後に生まれた児童1人につき10万円加算します。

